

① はまなか 議会だより

NO152
令和7年4月15日発行



3月定例会

	6人の協力隊員を採用	2P
	委員会レポート（総務経済常任委員会） （社会文教常任委員会）	4P～7P
予 審 一 覧	小規模事業継続支援補助の内容は	8P～12P
算 議 問	5人の議員が町政を問う	13P～17P
	「浜中学」を学んで（笹 明梨 さん）	18P
	「弥栄」（梅津 花歩 さん）	

第4回極真全日本ジュニアファイナルカップにおいて、霧多布高校3年生の石原龍牙（りゅうが）さんが高校生男子軽量の部（組み手）で準優勝を果たしました。この結果は、日々の努力のたまものであり、これからのさらなる活躍を楽しみにしております。

表紙の写真

地域おこし協力隊員6名を採用 新たな視点からの地域活性化を目指して

3月
定例会
5日～12日

令和7年第1回定例会が3月5日から、8日間（休会2日含む）の日程で開かれました。町長から町政執行方針、教育町から教育行政執行方針が示され予算審議など活発な議論が展開されました。

今定例会には、令和6年度の補正予算をはじめ令和7年度当初予算および条例制定など30議案が上程され、いずれも原案どおり可決しました。

また、一般質問は5人の議員が登壇しました。

町の魅力と課題を外からの目線で発見・発信

地域活性化・地方創生の推進を図るには、これまで町民目線では見えていない町の魅力や潜在的な資源あるいは課題などを再認識することが必要と考え、地域おこし協力隊員を募集し、6名の採用を決定した。

隊員の身分は、個人事業主として町との委託契約を結ぶ委託型で、さまざまな業務を担って貰う。年度毎の契約とし、最長3年まで更新できる。委託料は業務内容によって若干異なるが報酬と活動費で550万円（国の上限額以内での契約となる）。

また、霧多布市街の空き店舗を改修して、移住交流拠点「ココカラ」を整備し協

○移住交流コーディネーター 1名

- ①「ココカラ」の運営・管理
- ・施設訪問者、利用者の対応
- ・施設の清掃、施設開錠
- ・周辺の環境整備など。
- ②移住相談、地域紹介業務
- ・住まいや仕事の情報提供
- ・移住体験プログラムの実施
- ・サポートメニューの紹介など。
- ③移住定住に関する情報発信
- ・SNSなど情報媒体の活用
- ・移住関連イベントの企画
- ・国、道、ふるさと回帰センターなどとの連携など。

- ④空き家バンクの運用
- ・空き家情報の収集や発信
- ・利用希望者への対応
- ・利活用方法の提案など。

○タウンプロモーション推進員 2名

- ①町の魅力や地域資源の発掘・発信
- ・地域とのネットワークづくり
- ・地域資源（ヒト・モノ・コト）の素材調査
- ・SNSなどの媒体による情報発信とPR
- ・ラジオ番組などでの情報発信
- ・町のPR方法の企画立案
- ・地域活性化への積極的な提案
- 観光振興PR支援員3名
- ①仮称「浜中町観光コンシェルジュ」の開設運営業務

- ・町内観光事業者の情報集約・更新に基づき、ニーズに合った観光案内
- ・観光施設の点検および利用の促進
- ・新たな観光資源の開拓
- ・新たな物産品の開発研究
- ・市場調査、販売斡旋など。

- ②町内外のイベント参加
- ・各種物産展などへの参加
- ・近隣町村との広域連携による観光推進PRなど。
- ③公式観光キャラクター「きりたん」に関する業務
- ・オリジナルグッズの開発研究、市場調査
- ・「きりたん」が出演した観光PR動画の作成など。

- ④町内周遊ツアーやサイクルツアーの企画立案
- ・モデルルートの作成実施
- ・モニターツアーの実施
- ・サイクルマップの作製
- ・ツアー会社との交渉など。

- ⑤アウトドア観光プログラムの体験と発信。
- ⑥観光協会との業務連携やサポート。

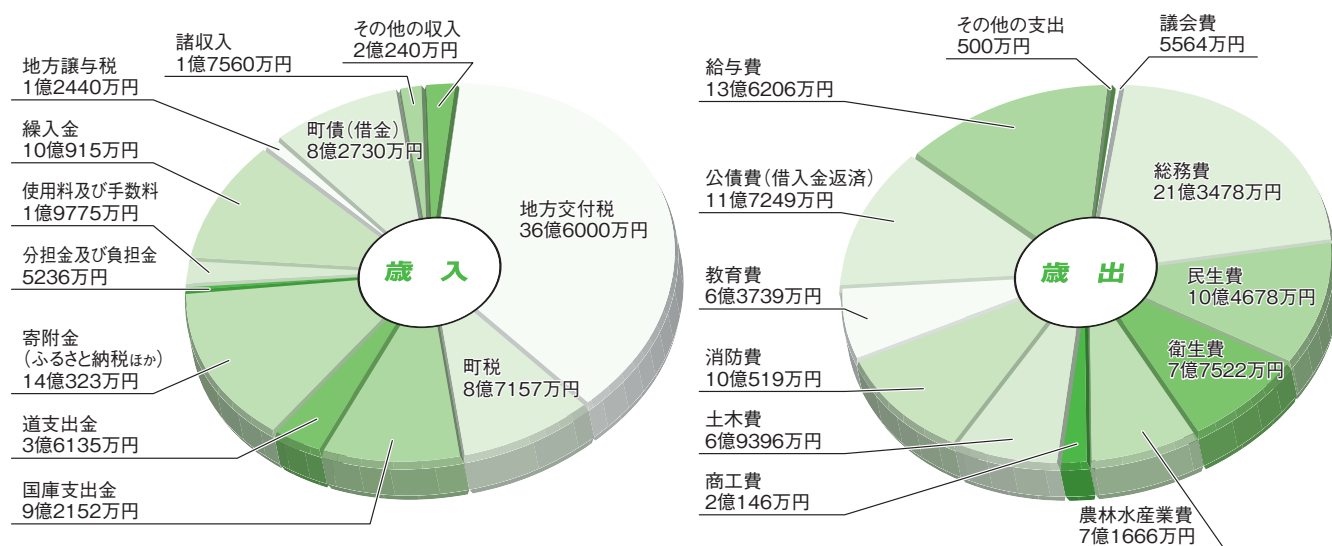
- ⑦隊員相互の連携を図り、個々のスキルを活かした活動や取り組み。

予算の概要

令和7年度 一般会計予算

総額98億663万円に

一般会計予算の内訳



各会計の当初予算と前年対比

会 計 別		歳入歳出予算額				増減率(%)	一般会計からの繰出金
		令和7年度		令和6年度			
一 般 会 計		98億0663万円		92億3885万円		6.1	
特 別 会 計	国民健康保険	11億0442万円		11億7523万円		△ 6.0	5440万円 ←
	後期高齢者医療	8858万円		8378万円		5.7	2509万円 ←
	介護保険	5億1046万円		5億670万円		0.7	7700万円 ←
	浜中診療所	3億3537万円		3億514万円		9.9	2億1477万円 ←
合 計		118億4546万円		113億970万円		4.7	3億7126万円 ←
企業会計（企業会計とは、民間企業と同じような経理を行う会計です。）							
		収入	支出	収入	支出	増減率(%)	
水 道 事 業	収益的	2億1874万円	2億1874万円	1億9300万円	1億9300万円	13.3	他会計からの補助金
	資本的	3441万円	8925万円	3億8826万円	4億4557万円	△ 80.0	
※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額5484万円は、過年度分損益勘定留保資金などで補てんする。							
下水道事業	収益的	4億0258万円	4億0258万円	3億9717万円	3億9717万円	1.4	一般会計からの補助金
	資本的	1億4369万円	2億4992万円	1億2422万円	2億1680万円	15.3	
※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額1億623万円は、当年度分損益勘定留保資金などで補てんする。							
2億1776万円 ←							

委員会レポート

観光推進のための意見交換会、丸山散布人工高台現地踏査、道外視察を実施

観光協会役員との意見交換、津波避難対策緊急事業計画の現地踏査を実施。

また、10月2日から4日間道外視察研修として、グランピング施設、道の駅ましこ、石川県の被災現場を訪問し、3月定例会で報告。

総務経済 常任委員会

○観光協会役員との意見交換会による観光業の振興対策に向けた調査

◆調査の概要

観光業の現状と課題を共有するため、観光協会役員の意見や提案を伺い、実現可能な事業を行政施策に反映することを目的に観光協会役員との意見交換会を開催した。

◆調査意見

令和5年度の所管事務調査項目に抽出していた観光協会役員との意見交換会は令和6年5月に開催した。その概要は、浜中町の観光課題を考えると宿泊施設ではホテルが無いことや民宿・旅館の収容人数および飲食店が少ないため通過型観光になっていることについて協議された。

浜中の良さを外部にアピールし知名度を上げること

が重要であり、例えばグランピング施設の開設や観光施設の整備・トイレの水洗化。また観光協会の法人化の提案があり、当委員会では早速にこの大きな課題に対応していく必要があると考える。

今後は、この意見交換会で出されたさまざまな課題を共有するとともに、観光協会から提案された課題の中から実現可能な事業を町政に反映することは、観光業者と町民の利益に資するものであり、町政が早急に取り組む事業であることを申し添え調査意見とする。

○津波避難対策緊急事業

◆調査の概要 計画の現地踏査

津波避難対策緊急事業5カ年計画に基づき、6年度実施された丸山散布人工高

台造成事業の現地踏査を実施した。

◆調査意見

本町の津波防災・減災対策事業は、津波避難対策緊急事業計画に基づき、令和9年度までに人工高台1基・4地域に避難タワー4基を建設する予定である。

引き続き年度計画で建設される避難施設の工事現場を現地踏査するとともに進捗状況について調査していく予定であり、建設に係る財源確保に万全を期すよう申し添え調査意見とする。

○魅力ある観光施設整備に向けた調査

◆調査の概要

「道の駅たかねざわ元気あつぷむら」で取り組んでいるグランピング施設整備の経緯と内容を調査し、本町の観光施設整備に活かす。

◆調査意見

近年のグランピング施設の形態は種々あるが、「道の駅たかねざわ元気あつぷむら」の様なトレーラーハウスを用いた施設には、話題性・斬新さがあった。移

動可能といった点もさまざまな場面に適応可能と考えられ、利用方法に可能性を見出すことができる。テント型施設の導入も検討したが、素材劣化によりコスト高となるとの判断からトレーラーハウスを選択したと伺った。強風による対策の必要が少ないのも大きな利点と感じた。

もう一つ必要性が感じられたのがコテージである。備え付けの設備により自由度の高い居住性が生まれ、滞在客の誘致に敷居が低いのも魅力である。キャンプに不慣れな観光客でも、食材を持ち込むだけで気軽に利用できるコテージは、宿泊施設が少ない浜中町にとって魅力的である。霧多布岬キャンプ場における屋内型宿泊施設にはバンガローがあるが、どれも老朽化が進み照明やコンセントも備わっていないため、快適な宿泊施設とは言い難い。

浜中町が持つ環境においてのグランピングやコテージ型宿泊施設の実現性を、高根沢町のケースにそのま

ま照らし合わせる訳にはい
かないが、規模や運営方法
の熟考次第で参考になる点
が多かったのは事実である。

浜中町を訪れる観光客が
増加している今を貴重なチ
ャンスと捉え、滞在を可能
とする施設の整備を検討す
べき事案であることを申し
添え調査意見とする。

○「道の駅ましこ」の運営 形態と6次化産業の取り 組みについて調査

◆調査の概要

原料調達、商品開発、製
造、販売までを道の駅運営
会社が中心となつて行う地
域ぐるみの6次化産業の取
り組みを把握・検証するこ
とで、今後の「道の駅」の
あり方や運営など特色ある
手法を模索するための参考
に資する。

◆調査意見

益子町では道の駅事業を
行うにあたり、運営方法の
検討、出荷者との関係構築
のための準備店舗を開設し
2年間営業を行ったとのこと。
本町も空き店舗を利用
して、「(仮称) 浜中マルシ

エ」を3年ないし5年間な
ど期限付きで運営してみ
ることも可能ではないかと考
える。

店舗内は、他の道の駅と
の差別化として陳列の工夫
で地元加工業者および生産
者の商品を目立つように配
置しており参考になった。
本町の特色ある店舗を考え
る上で、特産品を姿売りす
るなどの検討をするべきで
ある。

石川県の朝市のように個
人の軽トラックなどによる
魚・野菜などの特産品販売
を考えられないか。例え
ば、昆布1本3尺5寸(1
06・1cm)の物を1本、
またはグラム売りなど。

地域ぐるみという道の駅
コンセプト「令和の地場産
業づくりのエンジンになる」
をモットーに地域を豊かに
すると支配人が話されてい
たが、本町としても「(仮
称) 浜中マルシェ」開設に
向け、地産地消・地域の活
性化のエンジンにすること
ができると考える。

本町でも、小型加工機器
を使用することで、大が

りな加工場ではなく、少量
な商品作りから始められる
と感じた。

道の駅は、本町の懸案事
項であるが「(仮称) 浜中マ
ルシェ」・「(仮称) 軽トラ市
場」・「(仮称) 浜中アンテナ
ショップ」などの創設を検
討すべき事案であることを
申し添え調査意見とする。

○石川県能登半島における 液状化被害状況を調査

◆調査の概要

令和6年1月1日発生の
地震津波災害の現状と復興
に向かう姿を現地踏査で確
認し、液状化被害の対応な
ど本町の災害対策に備える。

◆調査意見

液状化のメカニズムは、
地盤に強い衝撃を受け、地
盤がドロドロの液体状態に
なる現象である。石川県で
も液状化しやすい内灘町周
辺を視察した。結果、被災
状況は甚大で、迅速な復旧
が必要と強く感じた。

また、内灘町では、防災
意識の向上が課題であると
指摘されているが、本町で
は地震、降雨などによる複

合災害が予想されるので、
全町的な防災訓練や教育活
動と合わせ「避難施設の整
備」を早急に推し進めてい

くための予算確保に努めて
いただくよう強く要望し、
調査意見とする。



委員会レポート

社会文教 常任委員会

生活環境の改善 人口減少対策に向けて

10月16日から3日間、道内のバイオマス発電施設や人口減少対策、子育て支援政策について視察研修を行い、3月定例会で報告。

○町のエネルギー政策に 向けた調査

◆調査の概要

エネルギー政策に関しては、「浜中町バイオマス産業都市構想」が令和5年2月に承認されてから具体的な事業計画が定まらない状況にある。また、家畜ふん尿処理（草地散布）にともなう臭気対策などの生活環境の改善も求められている。

本町のバイオマス事業推進に資するため、バイオメタンガス活用の先進自治体である「鹿追町」と「大樹町」の行政視察を行うこととした。

◆調査意見

今回視察した両町ともにバイオガスプラント事業（BGP）に着手することになったきっかけは、主に市街地住民から役場などの公的機関に臭気に対する苦情が

寄せられたことであった。

本町では、直接的に苦情などは寄せられていないものの「洗濯物の外干しができない」「窓を開けられない」等々の声もあり、生活環境改善や酪農業の継続・発展の上からも家畜ふん尿処理に伴う臭気対策が今後の課題でもある。

また、「ゼロカーボンシティ」宣言での2050年カーボンニュートラルに向け、石油や天然ガスなどの化石燃料への依存度を下げる取り組みが求められている。現在、民有地に民間事業者による太陽光発電や風力発電が乱立気味に設置されているが、どちらも天候に左右され安定電力とはなり得ていない。特に太陽光発電設備においては、10年後位から耐用年数が過ぎ排出される大量の有害廃棄物の撤去・処理が課題となる。

そうした中、BGPによる発電や液化バイオメタン・水素生成など化石燃料に代わるエネルギー開発・利用に向け大手企業と連携した実証実験が進められている。

今後BGP事業を計画する上で、この度の視察を通して感じた留意点を申し添えます。

①基本となるのは酪農家の理解である。酪農家の費用負担が発生する以上、液肥散布作業を肩代わりし個々の労働時間の軽減策などが有効と思われる。（鹿追町）

②両町ともBGP事業収入の約70%が売電収入である。発電機などの設備投資が必要となるが、メタンガスの販売だけでは事業維持が困難と考える。（大樹町）

③メタン発酵後の消化液散布地の確保。原料であるスラリーとはほぼ同量であり草地だけでは還元できないため畑作耕地に散布している。（鹿追町・大樹町）

④原発の再稼働や施設延命措置など国のエネルギー政策が不透明であり、売電単

価の上昇は見込めない状況ではあるが、BGP電力の町内消費（公共施設など）の可能性を検討し、電力会社と協議するとともに国・道への支援要請が必要と思われる。

○町の人口減少対策に 向けた調査

◆調査の概要

人口減少対策は、全国の地方自治体が抱える共通課題であり、とりわけ消滅可能性自治体のレッテルを貼られた町村にとっては喫緊の課題である。そうした中、本町の子育て支援施策などへの可能性を探り人口減対策に資するため、さまざまな施策や取り組みが功を奏し、子育て世代を中心とした若い世代の人口が増加傾向にある「上士幌町」と、町民との対話を通じた保育環境の整備を進めてきた「士幌町」の行政視察を行うこととした。

◆調査意見

(1)移住・定住施策の推進

今回視察した上士幌町は道内でもいち早く移住者の

受け入れに向けた取り組みを行ってきた自治体の一つであり、平成28年には十勝管内で唯一まちの人口が増加に転じている。その立役者ともいえるのが、NPO法人上士幌コンシエルジュである。平成22年に設立された同法人は、町からの受託事業として生活体験住宅の受付や首都圏で開催される移住フェアでのブース出展などの移住定住促進事業やふるさと納税返礼品の発送業務を担っている。自主事業としては、旧小学校校舎を利用した交流スペース「豊岡ヴィレッジ」を開設し、カフェの営業や特産品の開発・販売のほか移住者同士や町民との交流をサポートしている。

減可能性自治体から脱却した要因であり、きめ細やかな移住相談業務の重要性が感じられた。

浜中町では、令和7年度採用の地域おこし協力隊を複数人募集し、空き店舗を活用して移住促進事業などを展開する予定である。上士幌コンシエルジュのようにさまざまな地域情報などの発信をしながら、産業団体とも連携をして移住者と地元住民の橋渡しの存在となる活動を求める。

(2)子育て支援政策の充実

今回2つの自治体の視察を経て、それぞれ保育環境の整備と子育て政策の展開について、本町でも参考となる点が多くあった。

保育環境の整備については、保育施設数や認定子ども園の設置など20年前から議論を重ねた結果、今の形があるというその経緯・経過に着目すべきである。

子育て政策の効果、つまり出生数の増加や子育て世帯の増加などといった結果はすぐに得られるものではないからこそ、現状を傍観

し続けるのではなく1歩でも半歩でも進めるための議論をもとにした政策展開が必要と考える。

その上で、政策展開に必要な不可欠なのは財源であり、上士幌町ではふるさと納税の多くを子育て・福祉政策に充当しているが、これらの政策は町に住む子育て世帯の就業状況や住環境、ニーズにマッチしてこそ活きる政策であると考察する。本町に置き換えた場合、集落が点在していることなど難しさもあるが種々の就業状況をはじめ個々のニーズを満たしながら、町として子育て支援政策の方向性と十分な予算配分について協議・検討が必要と考える。

①本町の保育施設は、常設保育所2カ所とへき地保育所3カ所である。主に一次産業を担う保護者からは、へき地保育所での居残り保育や長期休暇時の保育に対応していないことなどの声もある。

また、喫緊課題としては、霧多布保育所の老朽化があ

り、単なる施設改修ではなく幼児教育や多様化するニーズにも応えられる施設の設置に向けた議論が必要である。令和6年には、行政主催による子育て世帯との座談会が行われたが、より具体的な子育て課題やニーズを把握するため保護者と直接対話する機会などが必要であると考ええる。現状の制度の中で着手できることと改善できる具体的な動きが明示されることが望ましい。

②上士幌町は、こども・子育て100サポート事業として子育て世帯を経済面・環境面の双方から充実した支援ができるのは、子育て・福祉分野に多くの財源を充当しているからである。

本町では、経済的支援などを充実させてきたが、子育て世帯

が暮らしやすさを感じられなければ、子育て環境が改善したという実感も得られにくい。子育て施策以外の事業とのバランスを考慮することはもちろん必要だが、子育て・福祉政策の財源を拡充することが人口減少の対策につながると考える。

財政対策も含めた行政内部の連携を図るなど、積極的な姿勢を求める。



予算審議から

小規模事業継続支援補助の内容は

問 小規模継続支援補助の6年度実績と7年度550万円の詳細は。

答 令和6年度に創設された小規模事業継続支援補助制度とは事業者が既存店舗などの増改築、改修および備品購入した場合などに支

援するもの。増築・改築は共に2分1の補助率で補助限度額200万円。改修と備品購入は、補助率同様で補助限度額100万円。令和6年度の実績は、補助上限の100万円の補助事業5件をはじめ他3件の8業者から申請があり総額66



小規模事業継続支援補助で改修した天井の空調など

5万円の実績となった。令和7年度は、飲食店・小売業・水産加工業などから問

い合わせが来ており、申請を見込んだ予算措置である。

安心住まいる促進事業 助成額の見直しは

問 安心住まいる促進事業助成金500万円は、6年度当初予算と同額である。

12月の補正でも650万円が追加されており、申請は77件と利用数も多い。この制度は空き家対策の一環にもなっている事から評価される事業の一つである。しかし物価高による資材および工事費などの高騰で現在の助成額では追い付いていないのが現状である。助成

額を増額する考えは。

答 利用数が伸びた要因として夏季の猛暑によるエアコン整備が大きい。今年も猛暑が予想されることからエアコン関連での申請が多いことが考えられる。その都度補正予算での対応をしていきたい。助成額については次年度以降、財源も含め検討したい。

お誕生祝いの木工品は

問 誕生祝品製作委託料66万円の内容は。

答 従来の木製積み木セットに加え、新たに木製の机・

椅子セットを製作する。1組2万2000円を30組製作。積み木セットと机・椅子セットから選んでもらう。

貰人会館の改修内容は

問 工事費740万で実施する貰人会館の改修内容は。

答 平成11年に保育所併設の集会施設として建設されたが、平成22年に保育所は

用途廃止となっている。平成25年に外壁の張替えと屋根の塗装を施しているが令和5年に雨漏りが発生し、屋根のサビ部分の補修を行ってきたが解消されなかった。



改修される貰人会館

め屋根の葺替工事を実施する。工期は、6月上旬から8月中旬の予定。

なお、工事期間中も会館の使用に支障はない。

ルパン三世Payカード 普及への支援は

問 ルパン三世Payカード運営への補助と行政ポイントの紐づけは。

答 運営費補助116万円は、決済手数料79万円、振込手数料の事務経費21万円、機器リース料16万円である。

カードに紐づけする行政ポイントは、安心住まいる促進事業助成、結婚祝い金、出産祝い金、再生エネルギー導入補助、低所得世帯の生活支援助成に係る5種類となる。

湯沸地区集会施設の建替えは

問 事業費8660万円で建設する湯沸地区集会施設の内容と供用開始時期は。

答 現施設の「湯沸母と子の家」は、昭和52年築の鉄骨造りで柱などの腐食が激しく耐震補強も難しいことから、昨年の実施設計を基に建替える。

工法は、工場完成品のユニット(30㎡)を4台組み合わせるもので、塩害や強風に強く断熱性も高く、建設コストは在来工法に比べ約30%削減できる。工期は、6月中旬から10月中旬の予定で11月上旬には供用開始となる。

町道補修工事の予算は妥当か

問 令和7年度予算は7320万円で6年度比5200万円の減である。4路線の局部改良工事と道路照明91基のLED化であるが、補修が必要な路線は数多くある。今後、補正で対応する考えは。

答 6年度予算には、茶内通学路の排水改修といった水害対策の工事が含まれていた。町道補修工事費だけの比較では、6年度3740万円で7年度4830万円と1090万円の増額である。道路補修は、損傷度などを見ながら計画的に行っているが緊急性が生じた場合には補正で対応したい。

ふれあい交流公園整備事業の内容は

問 茶内ふれあい広場を公園として再整備する実施設計委託料1600万円であるが、整備の目的や内容および事業費規模は。

答 子ども・子育て支援計画策定でのアンケート調査では、子どもや親子が安心して楽しめる公園などの整備を望む声が最も多い結果であった。

各地域に小さな公園を整備してきたが、ニーズに沿っていないかった。

子育て世代も含めた多くの町民が集える場を整備しコミュニティや賑わいの醸成を図りたい。

整備内容の詳細は確定していないが、遊具の設置・駐車場の増設・フェンスの

更新やキッチンカーのスペースを設け週末イベントなどの開催もできる内容を考えている。

事業費は未定であるが、およそ2億円弱の規模を想定している。

野犬・野良猫対策

補助の内容は

問 犬猫避妊去勢手術補助153万円と野犬野良猫保護対策事業補助25万円の詳細は。

また、3万円で購入する野良猫撃退グッズの活用は。

答 動物の愛護・管理に関する法律および道の条例に基づき、犬猫の避妊・去勢手術を推奨することで、野犬・野良猫および捨て犬・捨て猫の増加を抑制し地域

社会に対する危害と迷惑の未然防止とともに、動物愛護と公衆衛生の向上を図ることを目的にした補助事業である。

手術代への補助率は、飼い犬・飼い猫は3分の1で、野犬・野良猫の場合は10分の10であるが、手術の種類と犬・猫によって上限額が異なる。詳細については、町広報・HPや自治会配布のチラシで周知する。

なお、野犬・野良猫の捕獲・一時保護や動物病院への移送を町内2つの保護団体へお願いする活動費として事業補助25万円を計上。

また、猫の撃退グッズを希望者に貸し出して、その効果などを検証したい。

旧琵琶瀬保育所の解体は

問 事業費1736万円で解体する旧琵琶瀬保育所の現状と実施時期は。また、今後の町有施設解体の予定は。

答 旧琵琶瀬保育所は、平成23年まで使用されていた木造平屋の建物で築30年が経過する。正面テラス側の

壁が倒れそうな状態で、住民からも危険であるとの連絡があり解体することとした。実施時期は決まっていないが、令和7年中には解体を終える。

今後の解体予定は、財源と危険度や景観などを勘案して協議していく。



解体が決まった旧琵琶瀬保育所

带状疱疹ワクチン

定期接種の内容は

問 国は、令和7年4月から年度内に65歳になる人を対象に带状疱疹ワクチンの定期接種を実施し、65歳を過ぎた人へは5年間の経過措置として、その年度に70・

75・80・85・90・95・100歳になる人も対象になるとした。
その予算として310万円の計上であるが、対象者数や接種費用および効果・

副反応などの詳細は。
ただ、対象年齢外の人は最大4年間発症リスクを抱えることになる。接種費用の一部を町独自に助成する考えは。

周知方法は、対象者への個別通知や広報誌・HPなどを予定している。
また、定期接種対象年齢外で接種を希望する人への

助成については、不安やリスク軽減を図れるよう8年度までに助成に向けた制度設計を考えたい。

令和7年度から 65歳以上の方などを対象に 带状疱疹ワクチンの 定期接種を実施します。

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare



定期接種の対象・接種する方法・費用

〈対象〉定期接種の対象は以下の方です。

対象者は年度によって異なるため、接種の機会を逃さないようにご注意ください。

①年度内に65歳を迎える方

②60～64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

注1)令和7年度から5年間の経過措置として、その年度に70、75、80、85、90、95、100歳になる方も対象となります。

注2)令和7年度に限り、100歳以上の方は全員対象となります。

〈ワクチンを接種する方法と費用〉

定期接種はお住まいの(住民票のある)市町村(特別区を含む)で実施されます。

ワクチンを接種できる医療機関や費用、申し込み方法などについては、お住まいの市町村にお問い合わせください。

答

带状疱疹は、体内に潜伏しているウイルスが、加齢などの要因で免疫力が低下すると再活性化し、神経に沿って痛みを伴う水泡(水ぶくれ)が带状疱疹に現れる疾患である。近年、高齢者の発症数が増加傾向にあり80歳までに3人に1人が発症すると考えられている。神経痛などの後遺症もあり重症化すると失明の可能性もあると言われている。

ワクチンは、2回に分けての接種となり1回の自己負担は3割の6600円の予定である。対象者425人の接種率25%を見込んでの予算である。

発症予防効果は97%と高く安全性も国が承認しているが、コロナワクチンと同様に副反応として接種部位の痛み・疲労感・発熱などの症状が伴う場合もある。

きりたん公式ソングの作成は



公式ソングを待ち望むラッコの「きりたん」

問 委託料16万円で作成するきりたん公式ソングとは。

答 これまで浜中町の観光にまつわる公式ソングが無かった。観光イベントなど

で活動する公式ゆるキャラ「きりたん」のテーマソングを作成し、浜中町の観光PRに活用したい。作成は、釧路市のボーカルデュオに依頼する。

小中学校の 校用備品購入費の内容は

問 小学校の校用備品購入費2486万円と中学校の校用備品購入費1410万円の内訳は。
また、校舎等補修工事120万円の内容は。

答 小学校校用備品購入費は、ポーターブルーラー購入で浜中小8台95万円、茶内小11台130万円。GIGA端末機種iPad更新291台2240万円。その他校用備品費1校5万円の4校分20万円。

中学校校用備品購入費は、茶内中スピーカーとワイヤレスマイクセット39万円、霧多布中草刈機11万円、校務用パソコン1台28万円。小学校同様GIGA端末更新171台1317万円と校用備品費1校5万円の3校分15万円。

また校舎等補修工事は、浜中小・茶内小のポーターブルーラー設置に係る窓枠補修工事で浜中小51万円、茶内小69万円。なおポーターブルーラーは両校ともすべての普通教室と特別支援教室に設置する。

固定資産評価審査委員の選任に同意

松村嗣弥氏は、令和7年4月4日付で任期満了となることから、引き続き適任と認め、選任に同意しました。



松村 嗣弥氏
(霧多布)

その他の主な歳出（一般会計）

歳 出 の 内 訳	金 額
琵琶瀬地区津波避難タワー整備工事	5億5527万円
北海道自治体情報システム協議会負担金	1億 399万円
霧多布保育所改修工事	6390万円

条例の制定を議決

□ 浜中町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

「乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める内閣府令」が令和7年1月14日に公布されたことに伴い、7年度から制度化、8年度から義務化される「ことも誰でも通園制度」に対応するため、乳児等通園支援事業の設備および運営に関する基準を規定する条例を制定する。

□ 浜中町犯罪被害者等支援条例

犯罪被害者等基本法に基づき、犯罪被害者等支援等に関する基本理念を定め、町、町民および事業者等の役割を明らかにするとともに、支援の基本となる事項を定め、犯罪被害者等の権利の保護、被害の軽減および回復を図り、町民の誰もが安心して暮らすことができる地域社会の実現に向け、本条例を制定する。

補正予算を議決

一般会計は、年度末における事業費の確定に伴う減額や除雪費の追加などで4646万円を減額し、予算総額を96億3970万円とした。

◎特別会計

- ・ 国民健康保険特別会計
- ・ 後期高齢者医療特別会計
- ・ 介護保険特別会計
- ・ 浜中診療所特別会計

◎企業会計

- ・ 水道事業会計
- ・ 下水道事業会計
- ・ 特別会計、企業会計ともに令和6年度実績見込みに基づく補正。

議会映像配信



映像配信QRコード



一般質問

川村 義春 議員

問

魅力ある景観形成の
取り組みは

答

景観形成は「まちづくり」
各課連携し取り組む

川村 令和7年度町政執行方針で魅力ある景観形成づくりを掲げている。その具体的な取り組みを伺う。

町長 令和6年度で策定した「景観条例・景観計画」の目的に沿って豊かな自然と美しい景観を守り次世代へ引き継ぐことがポイントである。景観を守る視点の重要点は、町民に景観計画を知ってもらうこと。

空き家対策や
ゴミ拾い活動な
どへの支援・協
力も重要。

今後は、景観
計画の「ダイジ
エスト版」を作
り、全町配布す
るなど各課と連
携し景観形成に
取り組みたい。

川村 観光地と
して誇れる「美
しい・心地よい・
楽しい」まちづく
りは、景観計画
の重点区域と再
生可能エネルギー設置条例
の抑制区域が重要となる。
メガソーラーや風車の設置
規制に向け、町民に理解と
協力を求める考えは。

町長 抑制区域が民有地で
ある場合は、土地所有者や
事業者規制する条例の理
解と協力を求めたい。

また、景観のまちづくりに「地域おこし協力隊」の方々が地域の賑わいの創出に向け活動するので景観計画の活用を期待したい。



この素晴らしいロケーションを活かしたい

問

湯沸ハマナスロード
植栽樹への花植えは

答

ベゴニア
2000株を植える

川村 ハマナスロードの名に恥じないようハマナスを含めた植栽計画は。

町長 令和5年度から試験的に数種類の花を植え、様子を見たが塩害で枯れた。今年は、厳しい環境に強いとされるベゴニアを2000株用意し、観光客が来る前に植える。

今後は、歩道の路肩にハ

マナスの挿し木調査や環境に強い多年草を考えた。い。

問 霧多布ふるさと広場
周辺施設の点検は

答 定期点検しているが
施設の老朽化が著しい

川村 旧上水道施設は老朽化しており大地震の発生で取水堰（ダム）が決壊した場合の対策とふるさと広場に設置のトイレ・あずまや・貯水池周辺の木柵などの点検は。

町長 旧上水道施設の取水堰・る過池は定期的な点検している。設置後66年・耐用年数60年を超え、老朽化が進んでいる。ダムの崩落は、巨大地震が発生したら起こりうるもので、解体撤去が必要と認識している。ふるさと広場は、昭和52・53年に整備し48年経過。

平成19年に給水を止め、トイレや遊具などの使用を中止した。貯水池を囲む木柵を除き、トイレなどは解体撤去したい。

問 湯沸山に生息する
エゾシカ駆除対策は

答 駆除実績は28頭
今後もくくり農で駆除

一般質問

三膳 時子 議員



問

下水道整備は万全か

答

下水道施設の維持管理
業者で点検強化を図る

三膳 下水道管の材質・太さ・総延長は。

町長 材質はヒューム管・塩ビ管・ポリエチレン管の3種類。口径は400mmから50mmで、排水量に応じて使い分けている。総延長68・28kmである。

三膳 下水道管の耐用年数と点検は。

町長 管の種類を問わず耐用年数は50年。下水道布設

から29年経過しているため、経過年数順で定期的に漏水調査と管の劣化診断を行っている。

三膳 町内で陥没しているマンホールが複数見受けられる。車の走行などに支障があり速やかな補修が必要では。

町長 道路と段差ができる



段差ができた下水道マンホール

マンホールはある。マンホールが下がる訳ではなく、多くは凍結による土壌隆起が原因。マンホールは、3180個あり、日頃より道路パトロールや下水道施設の維持管理者で点検を実施している。不具合が発見された場合、応急的に土嚢を置き、その後修繕を実施

しているが支線など行き届かない所もある。今後点検の強化を図っていく。

問 命のバトンの活用方法は

答 マイナ保険証活用とあわせ検討を重ねる

三膳 令和5年12月定例会において「命のバトン」の活用方法について質問した。

令和6年の「命のバトン」の活用方法や対象となった町民へのアプローチの工夫はされたか。

町長 令和6年の配布時期までに救急情報の変更などを地域医療担当者連絡会議で協議できなかった。今後は、マイナ保険証の活用と合わせて検討して行く。

また、令和5年の一般質問では、アドバンスケアシートを入れた命のバトンを通して家族で人生会議を話し合うきっかけにできないかであった。今後、アドバンスケアシートを活用する方法として「命のバトン」が別な形で町民への周知方法を協議して行く。



一般質問

谷村 敦 議員

問

友好都市連携のビジョンは

答

人材交流も視野に
息の長い連携を

谷村 浜中町は令和7年度に沖縄県与那原町との間に友好都市協定を結ぶ。これに至った経緯は。

町長 昆布生産地と消費地との関係から平成7年より両商工会青年部が姉妹提携のもと交流を続けてきた。交流開始30年を迎え照屋勉与那原町長との間で強い思いを共有し友好都市連携の運びとなった。

谷村 調印へのプロセスは。

町長 少年少女交流事業に合わせ両町にて児童同席のうえ調印式を執り行いたい。

谷村 現段階における事業やイベントの構想は。

町長 イメージとして両町の店舗にブースを設け特産品の販売などを考える。互いの郷土料理として学校給食への提供も可能では。両町民の気運が高まれば観光人材や職員交流も実現可能と捉える。少年少女交流事業においては生涯にわたり残していきたいとの両町長の思いもある。限られた財源の中でお互いに無理のない交流からスタートしていきたい。

谷村 商工会青年部が行う少年少女交流体験事業は、人材育成の観点からも有意義な事業と評価が高い。ただ、児童のサポート人員に苦慮しているのも現実である。町として事業継続に向けて協力の考えは。

町長 与那原町との交流は少年少女の交流事業が柱であると捉える。行政として何ができるのか、青年部と

話し合いを重ね人員の補充など後方支援としてサポートしていきたい。

谷村 友好都市連携を活かすには多彩なアイデアや新たな視点も必要である。新年度に向け募集をしていた地域おこし協力隊はその力強い支えになると捉える。募集結果と詳細は。

町長 新年度は7人採用。移住交流コーディネーター1人、タウンプロモーション推進員3人、観光振興PR支援員3人となる。今後分野を精査しながら再募集をしていきたい。

なお、定例会後に協力隊員1人の採用を取りやめ6人となった。



シーサー作りを楽しむ交流事業

一般質問

渡邊 秀治 議員



問

浜中町の地域特性を活かした観光振興策は

答

滞在型の観光に結びつける仕組み作りをしていきたい

渡邊

霧多布岬キャンプ場のバンガローの老朽化に対する整備の方針と手狭な駐車場の拡張の予定は。

町長

バンガローは、築30数年経過しているが小破修繕で対応している。

駐車場を拡張する予定はない。

渡邊

観光案内所やグランピング施設の整備計画は。

町長

地域おこし協力隊の

拠点となる施設を観光案内所として活用できればと考えている。

グランピング施設は、行政の運営では難しいことから予定はない。

渡邊

浜中町を訪れる観光客の殆どがJRや国道を利用している。一方、主な観光地は霧多布・琵琶瀬・散布といった海岸地区に集中している。

このことは、浜中町における観光ルートの難点でありそれを解決できるのが茶内・浜中方面に観光案内所を置くことだと思うが。

町長

茶内駅前、町営バスの発着地でありトイレも整備されているので、本町の玄関口と言えると思う。

茶内地区の公園整備も含めて将来的に観光案内所を作りたいという思いはある。

冬場の閑散期にも誘客できるように仕組みを企業誘致などを通じて模索していく。

渡邊

観光協会役員から法人化を望む声があるが、行政としての考え方は。

町長

受け皿や財源の問題などで実現は難しい。

渡邊

令和7年度の町政執行方針の中に「観光協会との連携を密にし、観光地として多くの方に選ばれるまちを目指したプロモーションを推進する。また、霧多布

湿原センターおよび霧多布温泉ゆ

うゆについては、町民や観光客に

親しまれる本町の重要な観光拠点

施設であることから、

指定管理者制度による運営を継続

し事業者のアイデアや

ノウハウを活かした事業展開を図

る」と記述がある。観

光拠点施設と観光協会との連携などはどのよう

るか伺う。

町長

霧多布湿原センターと霧多布温泉ゆゆどちらの指定管理施設も観光協会と連携をしながら各事業を展開してきている。



手狭なキャンプ場の駐車スペース



一般質問

渡部 貴士 議員

問

厳しい財政状況下での
最重要施策は

答

各種産業振興策が
まちづくりの根幹

渡部 令和7年度一般会計当初予算は約96億円である。町政執行方針にもあるように引き続き非常に厳しい財政状況の中、財政調整基金を取り崩しての予算編成となっており、歳入に見合った事業計画が必要である。財政状況は、議会や町民と危機感を共有するレベルに達していると考ええる。各課からの予算要求時点

では、財源不足となり厳しい予算編成となつたと思うが、町長が最重要と考える施策は何か。また、財源確保への取り組みは。

町長 引き

続き厳しい財政状況ではあるが、財政調整基金は標準財政規模比15%以上であることから、も危機的状況にはない。

* 財政調整基金とは、自由度が高い町の貯金。
* 標準財政規模とは、町税や普通交付税など通常見込める収入の総額。
* 多くの地方自治体が目指す水準が10～20%。

財源が限られる中での予算編成であり、主な施策は、基幹産業である農林漁



再整備が望まれる茶内ふれあい広場

業の発展が「まちづくり」の根幹であり、各産業振興事業の継続が最重要施策である。商工業では、昨年度創設した創業支援・小規模事業継続支援の補助事業や民間賃貸住宅等建設促進助成などの活用で各分野の維持発展が図られる。また、今年度の琵琶瀬地

区から始まる津波避難タワー建設事業などの防災対策事業の継続も重要である。新たな施策としては、委託型での地域おこし協力隊員7人の採用により地域活性化を図りたい。さらに、子育て世代から要望があった居場所・交流スペースとして茶内ふれあい広場を公園として再整備し、コミュニティの醸成と賑わいのあるまちづくりを目指すため実施設計を行う。

自主財源である町税は、各種支援事業が経営の改善強化に繋がることでの増収に期待する一方、さらなる収納率の向上を図る。

また、ふるさと納税については企業版も含め、返礼品の強化や企業訪問など増収に取り組むとともに、関係人口・浜中ファンの増加につなげたい。さらには、国・道へ団体・個別での要望活動を積極的に行い、財源確保に努めていく。

なお、定例会後に協力隊員1人の採用を取りやめ6人となった。

弥栄

「浜中学」を学んで

霧多布高等学校1年A組

笹 明梨^{あかり}

霧多布高校に入学してから現在までの一年間、私たち一学年は浜中学で浜中町について知ることを行ってきました。実際に町議会議員の方々と意見を交流する機会を設けていただき、浜中町の現状やその状況を変えていくような提案をすることの難しさを痛感しました。

具体的に浜中学で特に印象が残っている二つのことについて紹介します。

一つ目は、ふるさと納税の返礼品を提案するというテーマです。考え方のベースとなるふるさと納税の理念や意義を受けて、ふるさと

と納税を活用した地域活性化策について学びました。また、浜中町で行っているふるさと納税の返礼品を調べ、「今無いようなもの」、「寄付者が喜びそうなもの」といった様々な角度から考えた返礼品の提案をプレゼンテーション方式で行い浜中町のふるさと納税担当者の方に提案させていただきました。

二つ目は、パブリックコメントを通して子育て支援事業への提案をしたことです。一つ目と同様に浜中町の計画書などを参考にして子どもたちがより良く過ごすことができる環境を第一として考え、現状の課題の改善案を出し、パブリックコメントに挑みました。ここでは更に、パブリックコメント本番前にも浜中町の各担当者の方々と交流する機会が設けられていました。

それにより私たちだけでは出すことが限界である提案に、各施策の実務担当者の方から見た意見もいただきました。そこでの意見を参

考にしつつパブリックコメントに向けた提案をすることができ、現実的な面でも物事を考えることができるようになったと成長を感じる瞬間でもありました。

現状から見いだした課題を浜中町の保育所や診療所などを参考にしながら自分たちで解決策を考案し、実際にプレゼンテーションとして提案させていただく機会が多かったように感じます。この一年間の活動を通じて、自分たち高校生に求められていることは、想像していたよりも高いものだったように感じました。

この一年次から良いスタートをきることができたように感じます。次年度からは、一学年での学びを活かして調べるというステップへ精進していきたいと思っています。

● 揮毫 1年A組 梅津花歩^{はなほ}さん

● 読み方 弥栄(いやさか)

● 意味 より一層栄えること

町のトピックス

霧多布春の風物詩

「ホッキ桁曳き網漁」

3月27日撮影

令和7年3月24日にホッキ桁曳き網漁が解禁となり、連日丸々と大きく成長したホッキが霧多布港に水揚げされていました。



町のトピックス(話題)を募集します!

この欄に掲載するまちの季節の写真をお寄せください。次回の発行は令和7年7月15日です。

ご応募はこちらへ 浜中町議会事務局 E-mail: gikai@town.hamanaka.lg.jp TEL: 62-2265